



創る科研究発表会！



10月22日（土）に創る科の研究発表会（正式名称は、『価値の創出と受容、転移をコアにした教科融合カリキュラムの開発～「創る科」の創設を通して～』です。）を行いました。南は大分、北は福島からと、150名弱の参加がありました。公開授業①では、創る科の授業をご覧いただきました。公開授業②では、国語、算数、道徳、体育、音楽の授業を行い、創る科の授業が各教科にどのようにつながっているのかご覧いただきました。午後からの協議会では、授業へのご意見と共に、附属山口小の子供たちが、素直でとても伸びやかであるというようなご感想もいただきました。子供たちの一生懸命頑張っているところをしっかりとご覧いただくことができました。保護者の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。また、来月は、幼小中一貫教育研究発表会もありますので、よろしく願いいたします。研究の成果を子供たちの成長にしっかりとつなげていきます。



研究発表会に参加された方々の感想

- 子供たちが、ここまで高まっていることがすばらしいと思った。
- 子供たちの学びに向かう姿がとてもすてきでした。そういった子供たちを育てている学級経営力、日々の積み重ねの様子をぜひ多くの先生に見ていただき、学んでほしいと思いました。
- 「価値」に特化して学べるのは、子供にとっても教師にとってもスッキリとして学びやすいと思った。また、心理学や発達そのものの授業のように、確実に各教科の学びに生きてくることが考えられる。子供たちが生涯大切にしていけることができる学びだと感じた。
- 4年ぶりに創る科の授業を見ましたが、随分と印象が変わりました。汎用的に使える「価値」を鍛える時間として設定されている時間とみれば納得できました。多面的・多角的に、そして自分の立場を明確にしながら話すが多かったのは、先生の日々の子供たちとの関わりの上手さだと思います。
- 今回、5、6年生に求める批判的思考力は、多面的・多角的に捉えるという側面でしたが、山口小の子供たちの様子を見ると、「前提を問う」「他に可能性はないか問う」「一度出した答えが妥当か問う」など、さらに高次元の批判的思考力も働かせられそうだと思います。また、教師が予定調和したいがために、子供たちが問うことを嫌がるようになると子供たちの批判的思考力はどんどん小さくなっていくのだろうと自分の学級経営を反省しました。子供たちが批判的思考力を働かせられるきっかけや余白を作れるようになりたいと思います。すてきな授業をありがとうございました。
- 子供たちの考えや困り感にとことん寄り添う教師の姿がとても印象的でした。割合の見方である「揃える」「基準」という言葉がたくさん出てきて、普段から数学的な見方をしっかりと子供たちに伝えているのだなと思いました。
- 子供たちがひたむきに学ぶ姿に感銘を受けました。子供に何を気付かせ、どのように成長させるのか、見本を見せたり、大切なことを焦点化させたり、色々なアイデアを想像できる実践だったと思います。
- 子供たちのあたたかい出迎えから始まり、のびのびと豊かに考えられる学級だと思いました。
- 創る科の学習の取組の意図は大変分かりやすかったです。教科が生活の中や他教科と結びつき、生かせることは、とても意義深いものだと感じました。
- 相手意識をもつことで具体的に考えられるようにしくまれているなど、子供の思考が広がりつつ伝える力の育成になっており、参考になりました。